

資源管理型漁業推進総合対策事業調査

1. 広域回遊資源：日本海北ブロック 第Ⅰ期対象魚種（ヒラメ、マガレイ、マコガレイ、マダイ） （抄 録）

伊 藤 欣 吾 ・ 原 子 保 ・ 佐 藤 恭 成

目 的

平成6年度から資源管理が開始された第Ⅰ期対象魚種について、漁獲動向を把握する。

内 容

1. 漁獲集計実態調査

青森県日本海沿岸の各漁協における対象魚種の漁獲について、集計方法、県統計（青森県海面漁業に関する調査結果書）への報告状況、及び銘柄と体サイズとの関係を調べた。日本海沿岸の漁獲量は小泊、下前、鰯ヶ沢、大戸瀬、風合瀬、深浦、舩作及び岩崎村の8漁協を集計することで、日本海全体をほぼ把握することができると判断された。

2. ヒ ラ メ

青森県日本海のヒラメの漁獲量は、県統計によると1990年に過去最低まで落ち込んだ後、1991年以降は増加傾向に転じていた。1993～1996年の日本海沿岸8漁協におけるヒラメの漁獲量を漁協別、月別、漁法別及び銘柄別に集計した。漁獲量は、1993年90トン、1994年107トン、1995年132トン、1996年165トンと増加していた。鰯ヶ沢漁協と大戸瀬漁協での漁獲量が全体の約70%を占めていた。漁獲時期については、4～7月の漁獲量が全体の50%を占めていた。漁法については、定置網による漁獲量が全体の約50%を占めていた。魚体サイズについては、最も小さい銘柄「P」の減少が特徴的であった。

3. マ ガ レ イ

1993～1996年の日本海沿岸8漁協におけるマガレイの漁獲量を漁協別、月別、漁法別及び銘柄別に集計した。青森県日本海のマガレイの漁獲量は、1993年103トン、1994年96トン、1995年79トン、1996年52トンと年々減少していた。地域的には、鰯ヶ沢漁協の減少が著しかった。また、鰯ヶ沢漁協と大戸瀬漁協での漁獲量が全体の約70%を占めていた。漁獲時期については、1～3月と9月の2つの漁獲モードがあり、9月の漁獲量が著しく減少していた。漁法については、定置網と沖合底曳網による漁獲量が全体の約60%を占めていた。また、沖合底曳網による漁獲量が著しく減少していた。魚体サイズについては、唯一銘柄と漁法が判別できる鰯ヶ沢漁協の沖合底曳網について検討した。銘柄別の漁獲量は、「P」が1994年に大きく減少、「小」と「中」が1995年に大きく減少、「大」が1996年に減少していた。

以上の漁獲集計には、大戸瀬漁協と風合瀬漁協の銘柄「小カレイ」を全てマガレイとして計算したので、銘柄「小カレイ」の魚種組成を把握し訂正する必要がある。大戸瀬漁協の銘柄「小カレイ」の魚種組成は、時期により異なるものの漁獲の多い1～4月はマガレイが70%程度を占めるものと思われた。

4. マコガレイ

1993～1996年の日本海沿岸8漁協におけるマガレイの漁獲量を漁協別、月別、漁法別及び銘柄別に集計した。青森県日本海のマコガレイの漁獲量は、1993年72トン、1994年47トン、1995年53トン、1996年55トンと1994年に大きく減少したが、この後は横這いとなっていた。地域的には、鰺ヶ沢漁協と大戸瀬漁協での漁獲量が全体の約80%を占めていた。漁獲時期については、1～4月の漁獲量が全体の約70%を占めていた。また、4月の漁獲量が著しく減少していた。漁法については、定置網による漁獲量が全体の約60%を占めていた。魚体サイズについては、唯一銘柄と漁法が判別できる鰺ヶ沢漁協の沖合底曳網について検討した。銘柄別の漁獲量は、1995年まで全銘柄とも減少し、特に銘柄「小」が著しく減少した。1996年は銘柄「大」の漁獲量が増加した。

以上の漁獲集計には、大戸瀬漁協と風合瀬漁協の銘柄「小カレイ」に含まれる0.2kg以下のマコガレイが含まれていないので、銘柄「小カレイ」の魚種組成を把握し訂正する必要がある。大戸瀬漁協の銘柄「小カレイ」の魚種組成は、漁獲の多い1～4月ではマコガレイが10%程度を占めるものと思われた。

5. マダイ（栽培資源）

(1) タイ類漁獲量の経年変化

日本海沿岸域における1974年以降1996年までの平均漁獲量は129.8 tであったが、1987年以降10年間の平均漁獲量も123.0 tと大きな変化はなく、漁獲量は横這い状態であった。

(2) タイ類の1+才魚（200 g 以下）の漁獲比率

過去5年間の平均比率約63%と大きな変化はなく、漁獲対象魚は若齢魚に大きく依存していた。

200 g 以上の個体の漁獲量は、岩崎、深浦地先において59.6～78.7%、鰺ヶ沢、十三、小泊地先で17.9～25.5%と海域によって違いが認められた。

(3) マダイ率

20,263尾を調査したが、マダイ率は72.5%となり、過去5年間の平均値である70%とあまり大きな差はなく、マダイとチダイの混獲率は、ほぼ一定であると考えられた。

(4) 標識魚混獲率

5月から12月までにマダイを14,702尾調査したが、標識魚は確認できなかった。

(5) マダイの0+才魚

マダイの0+才魚は、大戸瀬地先の底建網で11月から12月にかけて少数混獲され、その平均魚体はFL 9.2 ± 0.7 cm、BW 16.8 ± 4.4 gであった。

これらの魚体のマダイは、魚市場に水揚げされないため、市場調査で確認されなかった。したがって、市場調査のみで特定の銘柄の魚種が棲息していないと判断すべきではない。